

STANDARD

特定小電力トランシーバー

FTH-107

取扱説明書

47チャンネル

交交通話用 20 チャンネル
中継通信用 27 チャンネル

防噴流構造 IPX5 (旧 JIS 保護等級 5) *相当

※いかなる方向からの水の直接噴流を受けても
有害な影響のないもの

お買い上げいただき、ありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。

このトランシーバーは国内専用モデルです。
海外では使用できません。

本機は、厳しい品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などに伴う“破損”または“ご不審な箇所”がございましたら、お早めにお買い上げいただきました販売店または営業所/サービスセンターにお申し付けください。

また、万一故障したときには、お買い上げいただきました販売店または営業所/サービスセンターまで修理をご依頼ください。

なお、修理をご依頼になる場合には、故障の発生状況・症状等を具体的にお知らせください。

販売元・株式会社スタンダード

URL: <http://www.standard-comm.co.jp/>

〒153-8645 東京都目黒区中目黒 4-8-8

製造元・株式会社パーテックススタンダード

〒153-8644 東京都目黒区中目黒 4-8-8



付属品

— 下記の付属品をご確認ください。 —

ベルトクリップ(取付け用ビスも含む)	1
取扱説明書(本書)	1
保証書	1

お客様へ

● 防水(防噴流)について

本機の防水性能を末永く確保していただくために、必ずご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

キズ、劣化、外れ、汚れなどの確認

- ・ ボタンやスイッチ類のラバー
- ・ MIC/SP ジャックのキャップ
- ・ 防水シールと電池を入れる底面フタの防水パッキン

お手入れのしかた

水・砂・泥などがついたときは、柔らかいきれいな布で拭きとってください。必ず MIC/SP ジャックのキャップと、電池を入れる底面フタを確実に閉めた状態で拭きとってください。

オーバーホールのお奨め

お買い上げから1年経過した後、オーバーホールを行って1年経過した後、またはキズ、劣化等が確認されたときはオーバーホールをお奨めします。なお、オーバーホール代金は有償となりますのであらかじめご承知ください。

● アフターサービス

◎ 保証期間はご購入の日より1ヵ年です。

本製品には保証書が添付されています。 お買い上げいただいた日から1年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、無料で修理をお引き受けします。

過失など、故障内容によっては、保証期間中であっても有償修理の対象となる場合があります。

◎ 保証書は大切に保管してください。

保証書を紛失しますと、保証期間中に発生した故障でも保証期間が経過したものとして有償扱いにさせていただきますのでご了承ください。

また、お買い上げ日・販売店名等の必要事項が記入してない保証書も無効扱いにさせていただきますので、お買い上げいただきました販売店名・お買い上げ年月日等が正しく記入されていることをご確認のうえ、大切に保管してください。

安全上のご注意

— 必ずお読みください —

本機を安全に正しくお使いいただくために、次のことに十分ご注意ください。

- 危険** 誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
- 警告** 誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
- 注意** 誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

行ってはならない禁止事項です (例 ① 分解禁止)。

必ず守っていただきたい注意事項です。

危険

- 自動車運転しながら使用しない
事故の原因になります。
運転者が使用するときには、車を安全な場所に止めてからご使用ください。
- 航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では電源を切る
電子機器や医療機器に影響を及ぼす場合があります。
- 電池が漏液して皮膚に付着したり、目に入ると危険
化学火傷を起こすおそれがあります。直ちに医者診断を受けてください。
- 電源端子をはんだ付けやショートをしない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運ばないでください。
- 火のそばや、炎天下など高温の場所で充電・使用・放置しない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
- 当社指定以外の充電器で、オプションのニッケル水素電池(FNB-107)を充電しない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

警告

- 分解や改造をしない
本機は電波法に基づく無線局です。“証明ラベル”や“製造番号”を剥がしたり、分解や改造をすると違法です。また、ケガ等の事故や故障の原因になります。
- 本機は“IPX5(旧JIS保護等級5)”相当の防噴流構造になっておりますが、本体に水などがついたときは、なるべく早く乾いた布などで拭きとる
性能や寿命を低下させる原因になります。
- 煙が出ている、変な臭いがするときは電源スイッチを切って、ニッケル水素電池(FNB-107)またはアルカリ乾電池を外す
火災や故障の原因になります。 お買い上げいただきました販売店または営業所/サービスセンターに修理をご依頼ください。

注意

- 指定以外のオプションを使用しない
ケガの原因になります。また、本体の故障や破損の原因にもなります。
- アンテナを持って、本体を振り回したり投げたりしない
本人や他人に当たり、ケガの原因になります。また、本体の故障や破損の原因にもなります。
- アンテナをむやみに折り曲げたりしない
アンテナの変形や破損の原因になります。
- 強い衝撃を加えたり、投げつけたりしない
故障の原因になります。
- オプションのニッケル水素電池(FNB-107)は、充電器の周囲温度が5℃～35℃の範囲であることを確認して充電する
故障の原因になります。
- 磁気カードなどをトランシーバーに近づけない
キャッシュカードやフロッピーディスクなどの内容が消去されることがあります。
- イヤホンを使用するときは音量を大きくしない
聴力障害の原因になることがあります。
- 人の多い場所では使用しない
アンテナが他人に当たり、ケガの原因になります。
- 直射日光の当たる場所や熱器具の近くに放置しない
変形や変色等の原因になります。
- シンナーやベンジンなどでケースを拭かない
変形や変色等の原因になります。ケースが汚れた場合には、中性洗剤を湿した布で軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。
- 小さなお子さまの手の届かない場所に保管する
ケガなどの原因になります。

その他のご注意

- 他人の会話を聞いて、これを漏らしたり窃取することも法律で禁止されています。
- 防噴流構造になっておりますが、水がかかる場所での使用は避けてください。
- ご使用になる環境はそれぞれ異なりますので、全ての状態での防水性能を保証するものではありません。

オプション - 詳細はカタログをご覧ください -

オプションのマイクを接続するときは、十分に締めこんでご使用ください。
締め込みが不十分な場合、通話できないことがあります。

- ◎ ニッケル水素電池：FNB-107
- ◎ 2連式充電器セット：VAC-107
- ◎ 防浸型スピーカー/マイク口ホン：MH-73A4B
- ◎ スピーカーマイク口ホン：MH-57A4B
- ◎ タイピンマイク：MH-62A4B
- ◎ タイピンマイク(オープンイヤホンタイプ)：EK-313-107
- ◎ 小型タイピンマイク(耳かけイヤホンタイプ)：MH-381A4B
- ◎ VOXヘッドセット：VC-24
- ◎ イヤホンアダプター(3.5φモノラルイヤホン用)：CT-101
- ◎ ソフトケース：LCC-107
- ◎ インターコム型ヘッドセット：YH-100
- ◎ スポーツ/工事ヘルメット用ヘッドセット：YH-101A
- ◎ PTTケーブル(YH-100, YH-101A用)：CT-87

定 格

送受信周波数：1ch～9ch：422.2000MHz～422.3000MHz
(12.5kHzステップ) 01ch～11ch：422.0500MHz～422.1750MHz
中継装置使用時：
10ch～18ch：送信 440.2625MHz～440.3625MHz
受信 421.8125MHz～421.9125MHz
12ch～29ch：送信 440.0250MHz～440.2375MHz
受信 421.5750MHz～421.7875MHz

電 波 型 式：F3E

通 信 方 式：単信および半複信方式

送 信 出 力：10mW以下(電波法施行規則第6条適合)

受 信 感 度：－8dBμ以下(@12dB SINAD)

低周波出力：20mW以上(@4Ω、THD10%)電源電圧1.2V時

動作温度範囲：－10℃～＋50℃

定 格 電 圧：DC 1.2V

動作電圧範囲：DC 1.0V～1.7V

本 体 寸 法：54.0×95.0×24.7mm

(幅×高さ×奥行き：アンテナおよび突起部を含まず)

本 体 重 量：約136g(アルカリ乾電池を含む)

この定格は性能向上のため予告なく変更することがあります。

故障かな？ と思うまえに...

間違った操作をしていませんか？

修理を依頼される前に、ちょっとお確かめください。

◎ 電源が入らない！

- ・電池は正しく取り付けてありますか？
- ・電池は消耗していませんか？
- ・ニッケル水素電池(FNB-107)は十分に充電してありますか？

◎ 送信できない！

- ・通話(PTT)スイッチを正しく押していますか？
- ・送信禁止機能がONになっていませんか？
- ・相手が話し中ではありませんか？
信号を受信してディスプレイに“受信”が点灯しているときは、送信できません。
- ・外部マイク使用の場合、きちんと最後まで締めこまれていますか？

◎ 通話できない！

- ・相手と同じ通話モード(ノーマルモード・グループモード)に設定していますか？
- ・相手と同じチャンネルに設定していますか？
- ・相手と同じグループ番号に設定していますか？
- ・相手との距離が離れすぎていませんか？

◎ 勝手に電源が切れる！

- ・オートパワーセーブ機能が設定されていませんか？
- ・電池が消耗していませんか？
- ・ニッケル水素電池(FNB-107)は十分に充電してありますか？

◎ グループモードで運用中に他の人の通話が聞こえる！

- ・モニター機能になっていませんか？
電源ボタンを長押し(約1秒)して電源を切り、再度電源ボタンを長押し(約0.5秒)して電源を入ると解除されます。
- ・他の人も同じグループ番号を使用している場合があります。
グループ番号を変えてください。

正常に動かないとき - オールリセット -

スイッチを押しても反応しないときや、『故障かな？と思うまえに・・・』の項目に従って点検しても正常に動作しないときは、次の操作を行ってください。

● リセットを行うと、登録した内容はすべて消され、工場出荷時の“初期値”に戻ります。

① 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。

② ▲ボタン、▼ボタン、MODEボタンを同時に押しながら、電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を入れます。

③ 「ピッ」と鳴り、オールリセットされます。

セットメニューによる機能設定

本機には9種類のセットメニューがあります。

各メニューの設定を変更するときは次の手順で行います。

① 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。

② MODEボタンを押しながら電源ボタンを長押し(約0.5秒)して電源を入れます。

セットメニューが表示されます。

③ MODEボタンを押すたびに、セットメニューが切り替わります。

設定したいメニューを選択します。

④ ▲または▼ボタンを押して、点滅している設定項目を選択します。

⑤ 通話(PTT)スイッチを押します。
セットメニューの設定が終了します。

通話(PTT)スイッチ以外に、電源ボタンを長押し(約1秒)して電源を切っても、セットメニューの設定を終了することができます。

ディスプレイ表示	機能説明	選択項目	初期値
	グループコード(01～38)の選択 グループコードの番号を選択します。	01～38	01
	コールバック機能のON/OFF ONにすると、通話できる範囲にいるか、または電源を切っていないか、常時チェックできます。	OFF/ON	OFF
	スキャン機能のON/OFF ONにすると▲ボタン(または▼ボタン)を長押し(約1秒)したときに、チャンネルをスキャンすることが出来ます。スキャン中に▼(または▲ボタン)を押すと、スキャン方向を変えることが出来ます。スキャンを止めるにはMODEボタンまたは通話(PTT)スイッチを押してください。	OFF/ON	OFF
	ビープ音のON/OFF ボタンやスイッチを押したときに、確認音として電子音が鳴ります。この音が耳障りなときはOFFに設定してください。	ON/OFF	ON
	照明ランプ設定 通常は2に設定されており、ボタンを押すと照明ランプが約2秒間点灯します。OFFにすると、照明ランプを常時消灯することが出来ます。	2/OFF	2
	オートパワーセーブのON/OFF ONにすると、ディスプレイに“”が点灯し、2時間操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源をOFFにします。1分前に「ピピッ」と警告音が鳴り、電源が切れます。	OFF/ON	OFF
	コールサイン(1～5)の選択 本機にコールサインを設定することが出来ます。 1～5のいずれかの数字を電子音の回数で送信します。相手にコールサインを知らせたいときは、送信中にMODEボタンを押している間だけ、コールサインを送ることが出来ます。通常は“1”に設定されています。	1～5	1
	数字 電子音 1 ピロロッ 2 ピロロッ ピロロッ 3 ピロロッ ピロロッ ピロロッ 4 ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ 5 ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ		
	PTTディレイ機能のON/OFF(グループモード) 相手の信号を受信してから、待ち受け状態になるときに「ザーツ」と出る耳障りなノイズ音をカットして受信します(相手のトランシーバーも、PTTディレイ機能をONにしてください)。	ON/OFF	ON
	送信禁止機能のON/OFF(ガイドシステム子機などに使用のとき) ONに設定すると、通話(PTT)ボタンを押しても「ブーブ・・・」と警告音が鳴り、ディスプレイに“Err”と表示されて送信できません。	OFF/ON	OFF

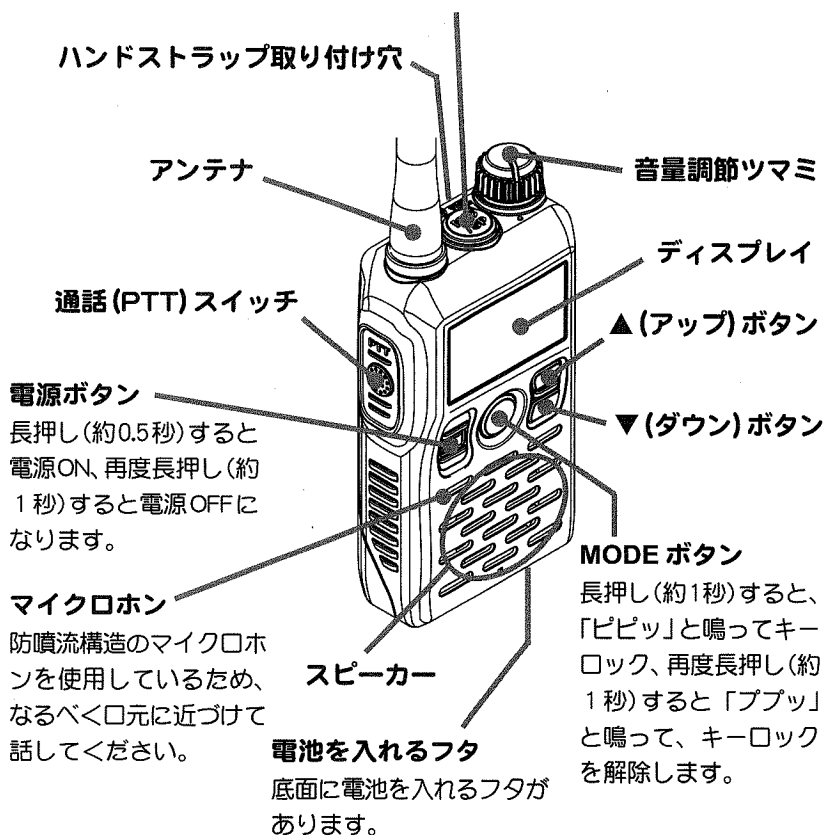
各部のなまえ

MIC/SP ジャック

オプションのスピーカー / マイクホンなどを接続する端子です。

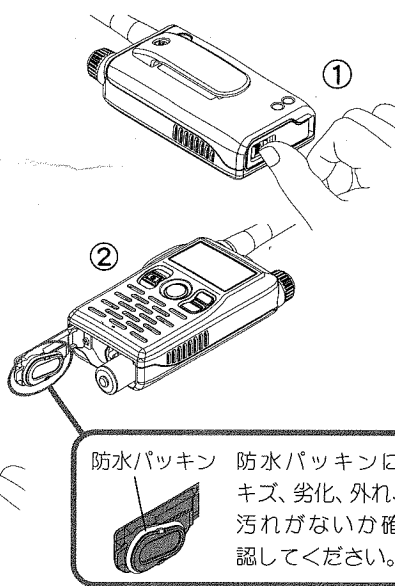
- オプションを使用しないときは、キャップをしっかりと取り付けてください(取り付けない状態で使用すると防噴流にはなりません)。

ハンドストラップ取り付け穴



電池の入れかた

- ① 底面フタのロックをスライドして、ロックを解除して開けます。
- ② オプションのニッケル水素電池(FNB-107)または市販の単三形アルカリ乾電池を(－)側から入れます。
電池の極性(＋)を間違えないように、注意して入れます。
- ③ 底面フタを押しながらロックをスライドさせ、確実に押し込み閉めます。



- オプションのニッケル水素電池(FNB-107)を使用するときは、必ず充電してください。
- オプションのニッケル水素電池(FNB-107)の充電のしかたは、オプションの「充電器セット VAC-107」の取扱説明書をご覧ください。
- 長時間使用しない場合は、ニッケル水素電池(FNB-107)またはアルカリ乾電池を取り外しておいてください。
- ときどき底面フタの端子と電池の電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良となり正しく使用できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。
- 電池を交換するときは、電源を切ってください。
- オプションのニッケル水素電池(FNB-107)または市販の単三形アルカリ乾電池以外の電池は絶対に使用しないでください。故障や火災の原因になります。

使用時間の目安

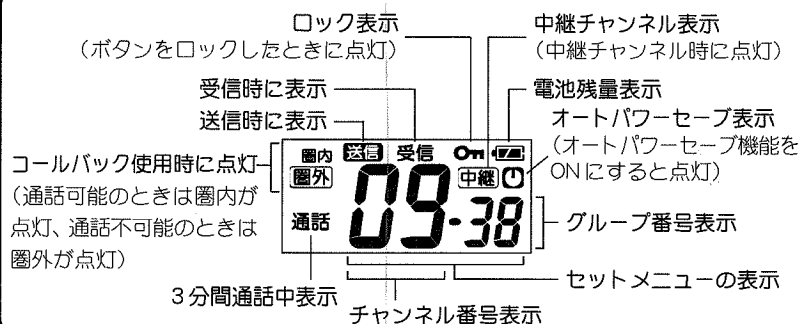
使用できる時間の目安*は次のとおりです。
ニッケル水素電池(FNB-107) ➡ 約24時間
アルカリ乾電池 ➡ 約30時間

電池残量はアイコン表示で知らせます。

- 🔋 ➡ まだ使えます。
- 🔋 ➡ 少なくなりました。
- 🔋 ➡ 残りわずかです。
- 🔋 ➡ すぐにニッケル水素電池(FNB-107)を充電してください。(すぐに電池を交換してください。)

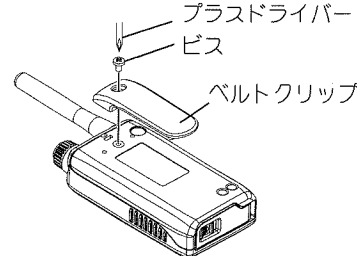
* 6秒送信、6秒受信、48秒待ち受けの測定条件になります。
左記の使用時間は目安ですので、実際に使用できる時間は、使い方や周囲の温度などによって異なります。

ディスプレイ



ベルトクリップの取り付け

- ベルトクリップをプラスドライバーで確実に取り付けてください。
- 故障の原因になりますので、必ず付属のビスを使用してください。



基本的な通話のしかた

本機には、周囲の状況に応じて選べる2つの通話方法(ノーマルモード、グループモード)があります。通話のしかたはどのモードでも同じで、ここでは、基本となるノーマルモードの通話方法を説明し、グループモードについては、右記の“グループモードの設定”を行ってから、下記の方法で通話してください。

① 電源を入れる

電源ボタンを長押し(約0.5秒)すると、電源が入ります。
「ピッ」と電子音が鳴ります。

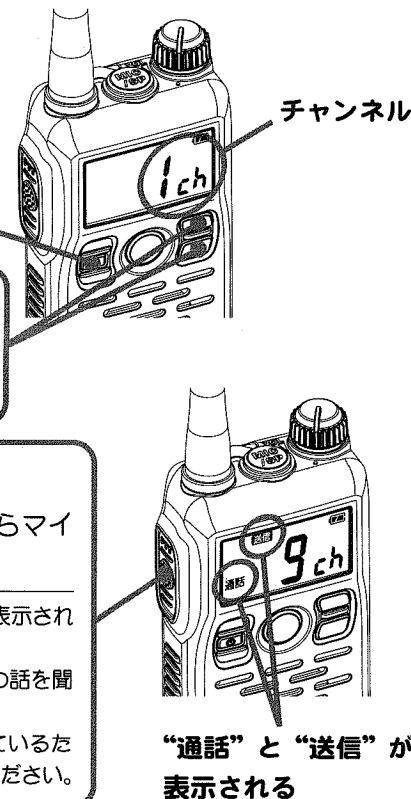
② チャンネルをあわせる

▲または▼ボタンを押して、相手と同じチャンネルにします。

③ 押しながら話す

通話(PTT)スイッチを押しながらマイクホンに向かって話します。

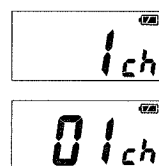
- ・ ディスプレイに“送信”と“通話”が表示されます。
- ・ 通話(PTT)スイッチを離すと、相手の話を聞くことができます。
- ・ 防噴流構造のマイクホンを使用しているため、なるべく口元に近づけて話してください。



従来のトランシーバーと通話するには

従来の9チャンネルタイプと通話するときは
チャンネル番号を1ch～9chに合わせます。

従来の11チャンネルタイプと通話するときは
チャンネル番号を01ch～11chに合わせます。



- ◎ ▲または▼ボタンを押すと、チャンネルは下記のように変わります。

➡ 1 ↔ 2 ↔ 3...7 ↔ 8 ↔ 9 ↔ 01 ↔ 02 ↔ 03...09 ↔ 10 ↔ 11

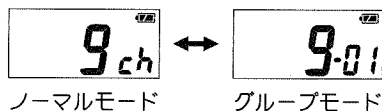
- ◎ 相手の声を聞きながら、音量調節ツマミで音量を調節してください。
- ◎ 相手の声が途切れて聞こえるときは、“一時的にモニターをする”を参照してください。
- ◎ 連続して送信できる時間は3分以内で、その間ディスプレイに“通話”が表示されます。
3分間連続して送信し続けると、送信は自動的に停止します。
なお、送信が停止する30秒前になると、ディスプレイに数字でカウントダウン表示され、送信が停止する10秒前には、「ピピピッ」と警告音が鳴ります。
また、送信が停止した場合、その後の2秒間は通話(PTT)スイッチを押しても「ブーブーブー...」と警告音が鳴り送信できません。
- 相手の信号を受信しているときは、送信できません。
ディスプレイに“受信”が表示されているときは、通話(PTT)スイッチを押しても「ブーブーブー...」と警告音が鳴るだけで、送信できません。

通話モードの切り替えかた

通話を行うモード(通話モード)として、次の2通りの方法があります。
周囲の状況に応じて使い分けてください。

- ノーマルモード ➡ 他のグループの通話が聞こえる心配がないとき。
グループモード ➡ 他のグループの通話が聞こえてわずらわしいとき。
チャンネル番号とグループ番号が一致すると通話ができます。

通話モードを切り替えるには
MODEボタンを押すたびにモードが
切り替わります。



初期値はノーマルモードに設定されています。



グループモードの設定

「同じチャンネルで他のグループの通話が聞こえてわずらわしい」そんな時に、
あらかじめ同じグループ番号に設定しておく仲間同士の音声だけが聞こえます。
グループモードにすると、受信終了時の「ザーツ」音をカットして聞きやすくなります。
オプションのタイピンマイクなどを使用される場合は、グループモードで使用されること
をおすすめします(詳細は「セットメニューによる機能設定」を参照ください)。

① MODEボタンを押す
グループモードにします。

② 電源を切る

電源ボタンを長押し(約1秒)
すると、電源が切れます。

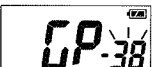
③ MODEボタンを押しながら電源を
入れる

セットメニューの“GP-01”が
表示されます。



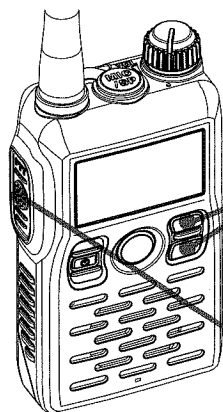
④グループ番号を選ぶ

▲または▼ボタンを押して“01~88”
の中から任意のグルー
プ番号を選択します。



⑤ 通話(PTT)スイッチを押す

セットメニューの設定が終了します。
左記の“基本的な通話のしかた”と同
様に通話します。
他人の通話が聞こえる場合は、グルー
プ番号を変更してください。



ボタンをロックする

誤ってボタンに触れても、チャンネルなどが変わらないようにすることがで
きます。

- ボタンをロックすると、セットメニューによる設定の変更やオールリセットもで
きなくなります。これらの操作は、ロックを解除してから行ってください。

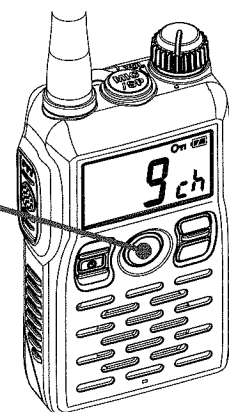
ボタンをロックするには

MODEボタンを長押し(約1秒)すると、
「ピピッ」と鳴ってボタ
ンがロックされます。

“On”が点灯します。

再度MODEボタンを長押し(約1秒)
すると、「プッ」と鳴ってボタンのロッ
クが解除されます。

“On”が消えます。



一時的にモニターをする

受信信号の状態を、一時的にモニターする機能です。

- ① 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ② ▼ボタンを押しながら、再度電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を
入れます。

モニターを解除するには、

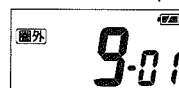
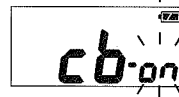
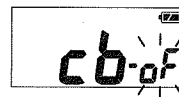
- ① 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ② 再度電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を入れます。

通話可能か常時チェックしたい

— コールバック機能 —

グループモード時に、あらかじめ下記の設定を行っておくと、「通話できる範
囲にいるか」または「電源を切っていないか」、常時チェックしながら通話が
できます。

- ① MODEボタンを押してグループモードにします。
仲間同士で決めたグループ番号とチャンネル番号になっているか確認します。
- ② 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ③ MODEボタンを押しながら、再度電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、
電源を入れます。
- ④ MODEボタンを1回押して“cb-off”を選択します。
- ⑤ ▲ボタンまたは▼ボタンを押して“cb-on”にします。
- ⑥ 通話(PTT)スイッチを押します。
セットメニューの設定が終了し、ディスプレイに“圏外”が
点灯します。
- ⑦ 左記の“基本的な通話のしかた”と同様に通話します。



■通話可能か確認するには(電子音とディスプレイの表示で確認できます)

	状 況	電子音	表 示
通話可能	・相手と通信できる範囲にいる ・相手の電源が入っている	約1分後に一度だけ 「ピピッ」と鳴る	電子音が鳴った後 “圏内”が点灯する
通話不可能	・相手と通信できない場所にいる ・相手の電源が切れている	約1分後に一度だけ 「プッ」と鳴る	電子音が鳴った後 “圏外”が点灯する

- 同じチャンネルで同じコードナンバーが他の使用者に使われているときは、
“グループモードの設定”を参照して、仲間同士で他のグループ番号に切り
替えてください。
- 他のグループの人が同じチャンネルを使って通話している時は、音声は聞
こえませんが、受信状態(ディスプレイに“受信”が表示)になり、通話
できません。

通話距離をのばすには

— 中継機能 —

(中継器“RP88”が必要です)

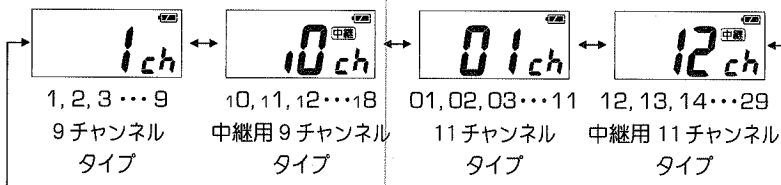
途中にビルなどの障害物がある場合や、相手との距離が離れている場合など、
電波が届かずに通話できないときは、当社の中継器“RP88”を中間点に設置
することにより、交信範囲が広がります。

なお“RP88”の詳細については、お買い上げいただきました販売店または
営業所/サービスセンターにお問い合わせください。

■設定のしかた

下記の操作を行うと、中継機能用のチャンネル(合計27チャンネル)が追加
されます。

- ① 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ② ▲ボタンを押しながら、再度電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を
入れます。
中継機能用のチャンネルが追加されます。
- ③ ▲または▼ボタンを押すたびに、チャンネル番号が変わります。



■設定を解除するには

- ① 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ② ▲ボタンを押しながら、再度電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を
入れます。

■通話のしかた

- ① ▲または▼ボタンを押して、中継用チャンネルの中で“RP88”と同じチャ
ンネル番号に合わせます。
- ② 左記の“基本的な通話のしかた”と同様に通話します。
- グループモードを使用することができます。
- 当社指定の中継器のみ使用可能です。